実を結ぶ協力

福音宣教師団)との協力 おいてはJEMA(日本

関係の中でクラッシュ・

和装で活動紹介をするKGKの学生たち

震災対応に焦点

援ネットワーク代表)、近 教連合震災復興支援ネッ ター)、住吉英治(同盟基 師、3・11いわて教会ネ 聖書バプテスト教会牧 革派・仙台教会牧師、仙 会牧師、いわきキリスト 督・勿来キリスト福音教 ットワークコーディネー 藤愛哉(保守バプ・盛岡 台キリスト教連合被災支 トワーク代表)の各氏。

書教会牧師)、吉田隆(改 田中時雄(聖協団・宮城聖 ト者の証言」をしたのは、 「東日本大震災キリス 深く~」を受け、大震災 それぞれの被災体験や、 力~もっと広く、もっと 教会協力による地域社会 団·西宮教会牧師)、中台 テーマに小平牧生(兄弟 という「新たな危機の時 機の時代における宣教協 キリスト教会牧師、 孝雄(日本長老・西船橋 代における宣教協力」を 課題などを聞いた。 への救援・復興の動きと (JCE5)のテーマ「危 した第5回日本伝道会議 09年9月に札幌で開催 氏が発題。 置、被災地への視察を経 を室長とする「JEA東 中台孝雄援助協力委員長 みながら5年後、10年後 日本大震災対策室」を設 かについて話し合った。 の時代」の認識を共有し、 ェクトチームを発足させ 事を加えた対策室プロジ て4月理事会で4人の理 協力をどう進めていくの に実を結ぶ宣教(教会) 救援・復興活動に取り組 A援助協力委員長) の両 JEAでは3月25日に 「新たな危機

たな危機の中で宣教(教会)協力をどう進めていくのか」を話し合った。 総会プログラムも震災に対応、被災地から「キリスト者の証言」を聞き、「新 復興に向けた取り組みなどを主とする2011年度活動計画案を決議した。 静岡県掛川市のヤマハリゾート・つま恋で開催、東日本大震災からの救援・ 日本福音同盟(JEA、品川謙一総主事)は第26回総会を6月6~8日 被災教会が所属する教団 に被災教会がない教団・ 派での救援・復興活動(主 所に限定される。②超教 団・教派の教会がある場 り組みを次の3つの流れ る救援・復興活動(主に を柱として進めていく方 た。2011年度活動 ・教派)。 地域的には各教 諸教会を支援する。③に との連携をはかりながら 仕者を派遣し、地域教会 宜開催する。また国内外 ボランティア・トレーニ おいては救援団体と共に ング・セミナーなどを適 ンティア活動を推進。同 ジャパンと連携し、ボラ 本部および地域拠点に奉

おり―敬称略。中台孝雄 事の任期は3年、 副理事長・援助協力)、 期まで。理事は以下のと 出した。理事長および理 佐々木望(バプ教会連合、 人の理事全員を新たに選 正により、今総会では (日本長老、副理事長)、 (アッセンブリ 連続2 記・JCE)、内藤達朗小平牧生(兄弟団、副書 教)、八尋勝(JCEA、 井満(キリスト合同、 メソ、青年)、 正会計)、鎌野善三(日本 (ホーリネス、神学)、 イエス、副会計)、田中進

12年9月には「第1回日 田」が10月に開催される。 月に、「宣教フォーラム秋 JCE5の流れを受けて の分配を行う。 窓口となり、見舞金など 教フォーラム青森」が7 企画された「2011宣 向けた取り組みとして、 伝道会議(JCE6)に からの支援金の受け入れ 定されている第6回日本 2016年に開催が予

性を出したいとしている。

の予定で青年委員会を中 る。JCE6のテーマや 理事会のもとにJCE準 地として神戸が挙げられ 年総会までに一定の方向 員会から提言を受け、来 ては今年度中に各専門委 理念、プログラムについ 備室が調整を進めて る。 JCE6の 開催候補 本青年伝道会議」を開催 心に準備が進められてい

決した。 の任期を2年、連続3期 検討する。題に関する課題や対応を の中で神学委員会(山口づき、JEA専門委員会 11年度活動の中で原発問会(渡辺敬直委員長)が 陽一委員長) と社会委員

3回ローザンヌ世界宣教南アフリカで開かれた第一今総会中、昨年10月に る上で、WEA(世界福 音同盟―JEAが加盟) 重要」との考えを示した。 と共にこのチャンネルは 教に関する情報源、また 年度活動報告で、「世界宣遣された末松隆三氏は10 教委員会から同会議に派 員長)が報告。 JEA宣 ザンヌ委員会 会議について、日本ロー 『宣教の神学』を構築す (金本悟委

理事会からの付託に基

の国を建てる働きと思え 分。勉強するために遣わ け、怒り・悲しみ・苦し が、相手の言葉に耳を傾 ます」。木田さんは「完全 されている。勉強も神様 う。「伝道だけでは大学に た」。今勉強が楽しいとい 仰の再建を考えさせられ 再建から、自分自身の信 に不安や葛藤があった」。 な共感や理解は難しい 遣わされている意味の半 しかし「ハガイ書の神殿 「神様についていくこと

先・教会・KGK・被災 るのでは。大学・バイト みに寄り添うことはでき

原発問題検討 専門委員会で

の姿があった。「個人的な 沈黙した。会場でも涙な 地は福島県。原発を有す 動に参加している。出身 その後、沿岸部の支援活 れることができません」 くれる仲間たちの目を忘 がらに話を聞く学生たち る土地としての葛藤を話 んは、岩手県内で被災。 あの静かな真剣に思って 握り祈ってくれました。 交わりの中でも、多くの 人が静かに耳を傾け手を した。途中言葉に詰まり、 高橋さんは、参加前は 続いて報告した木田さ ことば社)には、牧師が 大災害は、地震・津波・ 急出版された『流浪の教 テスト教会。この神の共 …」◆3月11日午後2時 るサバイバル逃避行。気 停止するクラッシュから 会』(佐藤彰著、いのちの あった福島第一聖書バプ 故現場から5キロ以内に 三重苦をもたらした。事 原子力発電所事故という 46分、大地を揺るがした る地に抱かれていました 東京は奥多摩の緑あふれ 始まり、何とか生き延び た。すべては、突然異常 流浪の教会となった◆緊 同体は先行きが見えない がつくと私たちは生かさ

神様の翼に乗って、

地区の現状と活動の課題 告の後、高橋さんは東北 ちの国の人は喜んだ」と 震災に遭ったとき、私た を述べた。「一番間近で祈 加した関東地区学生の報 った。ボランティアに参 貧富の問題、政情の不安、 る国の学生から「日本が との間に壁を感じた。あ 災の報告をする時間もあ 人権の問題など各国が抱 いう告白を聞いた。また 大会全体で東日本大震 注ぎだして祈りたい」。そ に寄り添い、いつも心を 遣わされた地に住む人々 地での支援など、神様に して「アジアの隣人を大 なものは、そんなにたく りました。そして、必要 師は語っている。「私たち の在りかた、信仰、そし 災害によってもたらされ れ、日常の一切が無くな は今すべてが剥ぎ取ら なった◆流浪の教会の牧 のを根本から問うものと て教会の存在意義そのも た衝撃は、クリスチャン りになった教会員に発信 められている。巨大地震 した涙のメッセージが込 災害発生直後から散り散

体による救援・復興活動 支援をしていきたい。③ これら3つの流れが互 教派)。地域的には①でカ て、JEA内のネットワ 震災対策室が中心となっ に連携・協力できるよう、 協力会員である各救援団 バーされていない地域に ーク構築を目指す。
 ②に 牧師)を選出した。昨年理事長、世田谷中央教会 会は、 成氏(日本同盟基督教 行、新理事長に安藤能第26回日本福音同盟総 新 事長に安藤能成 総会で可決した規約の

東北再建に責任果たせるよう祈って」 **社会で神の国を建てる**

合いでは、あるメンバー

小グループでの分かち

エス様を覚え、お互いの 言葉や心を聴いた。知っ

える話題でも、中心にイ や経済格差など緊張を覚 に祈り合った。「戦争責任

に

日本人への

「嫌悪感」

言い切れない重い気持ち になった」という。

へたちに会う。 不安とも

国際福音主義学生

連盟東アジア大会

Now(目を覚まし、夢を Dream! The Time Is East Asia Regional lical Students)の東アジ al Fellowship of Evange アは「Wake Up and 立大学で行われた。テー Conference) が5月25日 ア地区大会(EARC= (一年年の=Internation -31日、シンガポール国 国際福音主義学生連盟 今がそのとき ミン氏(シンガポール、 聖書神学大学院講師)。ハ 観に生きよう、という趣 だ)。現代的な価値観から 37人が参加した。 から約60人が参加。日本 目を覚まし、 ガイ書から4回行わ からはキリスト者学生会 旨。東アジア内外21か国 (KGK) の学生・主事 聖書講解はクオ・ツー ハガイ書は神殿再建 聖書的価値 での信仰、 リスト者、過激主義への を途中でやめたイスラエ スト者」、「経済・競争社 か」と問いかけた。 氏は「再建をやめた人は ル人に語りかける。クオ 応答)」。分科会では環境 会」、「宣教の課題(アジア ネット時代におけるキリ も優先順位が神様にある 人間中心だった。私たち 主題講演は「インター 公の場でのキ

性・就職・人生の目的・ ・心のケアなど社会問題 マになった。 ・食糧・消費社会・家庭 ともに』、太田和功一著) 学4年)は、出発前に日 題、宣教課題などがテー 信仰生活など学生の課 を読んだ。「自分の知るこ 本の戦争責任が書かれた 『アジアのキリスト者と 木田友子さん(岩手大 身。木田さんは苦手意識 のあった英語であった を感じた。その人は歴史 を持つといわれる国の出 問題で日本に複雑な感情 聖書から語られたこ

のメッセージに感動。「実

IFESから来た励まし 学3年)は東日本震災時 る姿勢を学びました」 謙遜に相手を知ろうとす ているつもりにならず、

える問題は多様だ。

高橋周也さん(弘前大

とができない痛みを持つ と、直面している葛藤や それぞれ課題があるたび てくれました」。メンバー り添って祈り、友となっ から目線でなく、私に寄 めた。すると相手も「上 困難を正直に話すよう努

> 面することができた。 れた海外の学生たちと対 ではメールで応援してく 強い動機になった。大会 い」という思いが参加の 際に会って交わりをした

国として東北

として責任がある。神の り、行動を起こせる地区

高橋さんも海外の学生

るように。

僕らが責任を を再建でき

く心に語られています」。 | つきです」

く『今』するのだと、強 応答を『いつか』ではな

た。本当に大切なものは、

さん無いことを知りまし

キリストとお互いの結び

切にしていきたい。この



「しかしやはり、震災と、